

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月27日現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22500540

研究課題名（和文）実践力のある体育教師養成のためのデータベース構築に関する研究

研究課題名（英文）Research on the Database Construction in Teacher Training for Physical Education Teachers as Excellent Practitioner

研究代表者

新保 淳（SHIMBO ATSUSHI）

静岡大学・教育学部・教授

研究者番号：30187570

研究成果の概要（和文）：研究目的は、保健体育科における授業実践のデータベースを構築することによって、実践力のある体育教師を養成する方法について検証することにあった。その結果、1. 自らの授業を振り返ることができる撮影アングルとビデオ再生形態についてのモデルを提示した。2. 授業の単元全体をビデオ共有システムに蓄積することによって、一時間のみの授業研究とは異なる授業研究の可能性について実証した。3. ビデオ共有システムを使うことによる、教科専門家から体育教師への支援について検証した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research was to construct the database of teaching practices in physical education and examine the methodology of training physical education teachers as excellent practitioner. As the results, 1) a model of the angle and the pattern of taking the practices on video was presented, 2) the possibility of the multiple lesson study with the accumulation of the whole teaching unit in the network video system was proposed, and 3) the methods of supporting physical education teachers by the professionals of the field with using the network video system were suggested.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2011年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学、身体教育学

キーワード：実践的指導力・反省的実践家・授業映像・データベース化

1. 研究開始当初の背景

（1）これまでの体育教師養成は、「体育教師像」が理論によって導かれ、その「一般的、総体的、体系的」な「理想とする体育教師像」へと体育教師および学生を導くことが、一般的な養成形態であった。

しかしながら、中井は「体育教師論」における「体育教師像研究の課題と展望」の中で、「これまでの研究は体育教師の『一般的なイ

メージ』を描き出すことに中心的な関心がおかれてきた」が、それ故「体育教師が現実の指導において『どのように対応すべきであるか』という具体的方策を導き出すことに有効なデータは産出されてきたとはいえない」（中井、1997、p.389）と指摘している。この中井の指摘は、これまでになされてきた体育教師の理想像を追い求めるというその探求の方向性からは、体育教師を養成する上で、

実践の場で役立つ、あるいは有効に機能する指導力が実現出来なかったものであり、それ故に、「体育教師に対する一般的イメージを描き出す次元を超えた研究が求められている」(中井、1997)ことを示唆するものであると言えよう。こうした状況認識に立つとき、これからの体育教師の養成に関しては、以下のことを考える必要がある。

(2) 従来の「教師養成論理」を再考し、体育教師養成において扱う「理論」においても、その「理想像」という教師能力の「厳密さ」を求めるのではなく、体育教師として「実践」に対応しうる能力の「適切さ」を求めることへと視点を変更することである。

このことは、体育教師の養成形態にかかわる問題でもある。例えば、これまで体育教師養成および研修会等において実施される典型的なパターンは、「理想とする体育教師像」が講義され、その内容がテスト等によって「単位認定」されるというものである。しかしながら、こうした「理論」の理解度テストという「机上」の判断において「体育教師」を養成することは、その「理論」の具体化である「実践」については、体育教師に全てを委ねるものであり、「理論は理論、実践は実践家に委ねる」という「理論」と「実践」の乖離を前提としていることになる。こうした「理論」と「実践」の乖離については、これまで多くの、まさに現実を構成しようとする「実践」の場で問題にされてきた。そのためこうした「乖離関係」を断ち切るためにも、また新たな「理論観」とその構築方法について再考することが求められよう。

(3) これらの議論は、従来における「理論」と「実践」の関係性の見直しをその原点として求めるものであるとも言えよう。

これらの問題を視野に入れた解決方法が、実践特有の質的状況、すなわち「特殊性、局所性、断片性」が可能な限り捨象されていない「生のデータ」に基づけられた実践方法の構築にあると考えられる。例えば、まず、ある特定の体育授業実践の現場において指導されたその「事実」が、体育教師によって「反省的」に記述され、それらがデータベース化される。それによって、次に特定の状況に近似的課題を抱えた別の体育教師によって利用される。あるいは、そうしたやりとりが大学における体育教師養成の教材として活用できるならば、これまでとは異なった「体育教師養成」がなされるとともに、体育教師として着任当初から、自己の授業実践を見つめるまなざし、すなわち「反省的記述」が行えるとともに、それを継続する中で、自らの「実践力」を高めることのできる「自己展開的」な体育教師養成が可能になると考えられる。

(4) 一事例の研究であっても、そこで得られた視点(構造)を通して現象の見え方が変わり、そしてよりよい実践につながる構造を構成しうるということが想定される「視点提示型」の研究は、体育教師における「実践力」の養成にとって有効性を持つと考えられる。

こうした研究によって提示された「仮説モデル」は、将来の体育教師にも生じる出来事であると「予測」され、それが本当に「再現」され、またこうした「予測」と「再現」が繰り返されると、それは事前に「制御」するという可能性を持つデータになると考えられる。

さらには、こうしたデータの積み重ねが図1のような展開を示すとき、そこには、「実践力」養成にとって意味を持ったデータベースの構築が想定される。データベースにおける様々なモデルの蓄積が、他者によって「再現」と「制御」という形式で検証されるという循環を辿ることが、この研究の妥当性を評価するものとなるであろう。以上のような研究によって、実践力のある体育教師の養成は、可能になると考えられる。

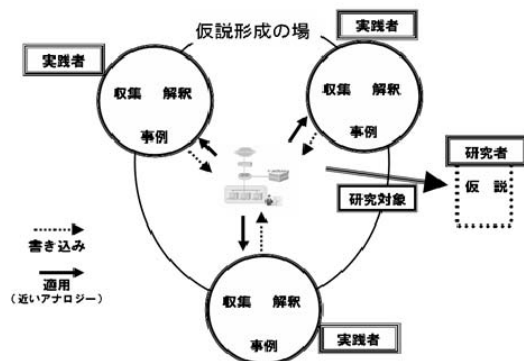


図1 実践データベースの構築とその利用

(引用・参考文献：中井隆司(1997), 体育教師論, 竹田清彦, 高橋健夫, 岡出美則編著, 体育科教育学の探求, 大修館書店.)

2. 研究の目的

本研究の目的は、実践力のある体育教師を養成するためのデータベースを構築することにある。従来の「理想とする体育教師像」を語る講義型の養成方法から脱皮するために、

(1) 様々な体育教育実践の事例を収集し、それを「視点提示」の観点から類型化する。

(2) それらをデータベースとして蓄積し活用することによって、体育の授業実践における「反省的実践家」の養成を目指すとともに、教員養成大学に新たに導入される「教職実践演習」等を利用して、実践力のある体育教師としての基礎力に資すること

を目指す。

3. 研究の方法

(1) 研究方法の第一段階は、まず「視点提示型研究」のプロトタイプを作成することにある。そのため体育教師の教育実践の資料収集によって、成功事例だけでなく、失敗事例という、まさに「実践」そのものの「生のデータ」と、その場面場面における「反省的記述」をもとに、将来データベースに蓄積すべき項目を確定する。

(2) 第二段階では、前段階のプロトタイプをもとに、多くの体育教師の教育実践とそのデータの収集に努める。

(3) 第三段階では、そこで収集・蓄積されたデータの索引化と検索方法を確立することによって、大学の授業におけるカリキュラム開発と「免許更新制」等の現職教員講習のための講義内容を作成する。

4. 研究成果

(1) データベースとして蓄積し活用が可能な、「ビデオ共有システム」を構築するとともに、その素材として、小学校および中学校における体育授業を撮影し、教師が後に授業の振り返りができる撮影アングルとビデオ再生形態についてのモデルを提示した。

(2) こうしたビデオ共有システムを活用して、次に、単発的な一時間の授業実践だけでなく、単元全体(計6時間)を網羅した小学校における「高跳び」の授業をビデオ共有システムに蓄積することによって、これまでの一時間のみの研究授業における授業観察とは異なる、いわゆる「点」の授業研究から「線」の授業研究への可能性について実践し、考察を加えた。

(3) さらに、ビデオ共有システムを使うことによって可能となる、小学校における表現運動の授業実践について、授業実践者と大学教員が直接に会って合同研究会を持つことなく、必要なアドバイスを受けることの可能性とその有効性についても検証を行った。

以上のことより、当初の目的であった、1. 体育の授業実践の事例を収集し、2. それらをデータベースとして蓄積し活用することによって、3. 体育の授業実践における「反省的実践家」の養成を目指すとともに、実践力のある体育教師としての基礎力を付けるためのデータベースが構築しうることを明らかにした。またこうした研究成果は、大学の講義や免許更新制等の機会において、活用している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計11件)

①高根信吾、長倉 守、村林愛奈、三澤宏次、山崎朱音、新保 淳、小学校の授業におけるリフレクションに関する研究—3年目教員と中堅教員の語りの比較を中心にして—、富士常葉大学研究紀要、査読有、第13号、2013、69-85

②新保 淳、山崎朱音、保健体育科におけるカリキュラム構成の将来的展望について(第一報)—「保健体育科教育法」と「教科内容指導論」との関係の原点として—、静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要、査読無、2013、201-210

③樋口 聡、A Philosophical Reflection on the Disaster and School Education、学校教育実践学研究、査読無、2013、279-284

④新保 淳、高根信吾、樋口 聡、体育教師・スポーツ指導者養成論序説:(3)—体育科における授業研究支援のための研究方法に関する研究—、静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇)、査読有、第43号、2012、275-284

⑤高根信吾、三澤宏次、新保 淳、授業を「物語る」ための方法論の探求—「点」の授業研究から「線」の授業研究へ—、富士常葉大学研究紀要、査読有、第12号、2012、71-86

⑥高根信吾、新保 淳、質的研究の方法論に関する一考察—ビデオ共有システムを用いた授業研究—、体育哲学研究、査読無、第42号、2012、59-61

⑦樋口 聡、オーストリアの教育事情、学校教育、査読無、2012、71-73

⑧新保 淳、樋口 聡、高根信吾、相場 誠、体育教師・スポーツ指導者養成論序説:(2)—体育教師養成に寄与するビデオ共有システムの意義と方法—、静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇)、査読有、第42号、2011、299-312

⑨樋口 聡、ヘーゲル哲学とスポーツ論の可能性、思想、査読有、1050号、2011、50-65

⑩樋口 聡、Brian Denman、新しい概念としての教育保障—問題提起と展望—、広島大学大学院教育学研究科紀要(第一部)、査読無、60号、2011、21-29

⑪新保 淳、スポーツ文化の変容過程に関する一考察—「科学的対象としてのスポーツ」の視点から—、体育・スポーツ哲学研究、査読有、第42巻第1号、2010、13-25

〔学会発表〕(計2件)

①高根信吾、新保 淳、質的研究の方法論に関する一考察—ビデオ共有システムを用いた授業研究—、日本体育学会体育哲学専門分科会夏期合宿研究会、2011

②新保 淳、体育科における授業研究支援のための研究方法に関する研究、第62回日本体育学会、2011

〔図書〕（計2件）

- ①樋口 聡（井上俊・菊幸一編）、よくわかるスポーツ文化論、ミネルヴァ書房、2012
- ②樋口 聡、山内規嗣、教育と思想の原理、協同出版、2012

〔その他〕

ホームページ等

http://163.43.177.95/template_01/Publish/Templates/design_template.dwt

6. 研究組織

(1) 研究代表者

新保 淳 (SHIMBO ATSUSHI)
静岡大学・教育学部・教授
研究者番号：30187570

(2) 研究分担者

樋口 聡 (HIGUCHI SATOSHI)
広島大学・教育学研究科・教授
研究者番号：30173157
高根 信吾 (TAKANE SHINGO)
富士常葉大学・経営学部・講師
研究者番号：70440609

(3) 連携研究者

なし